

木の本遺跡発掘調査概要・III

—平野川改修工事に伴う発掘調査—

1999.3

大阪府教育委員会

はしがき

本府教育委員会では平野川改修工事に先立って木の本遺跡・田井中遺跡・亀井遺跡等を長年にわたって発掘調査しております。調査の成果はその都度報告書等で一般に公開してまいりました。

今回、報告しますのは木の本遺跡での発掘調査結果でございます。八尾空港のすぐ北側を西流する平野川部分であります。古墳時代前期～中期の遺構を多数検出し、多量の遺物が出土しました。木の本遺跡は田井中遺跡の西に隣接しています。田井中遺跡では縄文時代晚期から弥生時代後期の遺構を検出し、多量の遺物を出土しました。約2500年前の縄文時代晚期から約1700年前の弥生時代後期の集落跡の中心部分や約1800年前の古墳時代から約900年前の平安時代にいたる水田跡の存在を確認いたしました。木の本遺跡では約1800～1500年前の古墳時代の集落跡を中心に約700年前の室町時代までの集落跡や水田跡であったことが確認されております。これらの結果から旧大和川左岸地域の弥生時代から古墳時代にかけての集落の変遷すなわち人間の生活が次第に明確になってまいりました。

文化財の発掘調査はすべてが明らかになるようなものではありません。また、遺跡単位では特定の時代しか理解できず、広い範囲で複数の遺跡を見ていかないと歴史にはなり得ないようです。範囲は時代が新しくなるに連れ広がりを見せるのは当然のことです。このように時間軸と平面的な広がりと人間の思考が絡み合った歴史を明らかにしていくには、地道な調査を繰り返し、データを蓄積していくしか方法はないようです。今後も周辺で工事が継続して行われるため、文化財の発掘調査が予定されております。いつの日いかは、発掘調査によって得られた成果をまとめ、周辺地域の歴史を明らかにできる日がくるものと思います。

調査に際しまして、地元の方々並びに関係各位に多くの御協力を得ましたことに深く感謝いたします。ひきつづき、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成11年3月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 鹿野 一美

例 言

1. 本書は平野川改修工事に先立って実施した八尾市木の本1丁目所在木の本遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は大阪府土木部河川課 の依頼を受け、 大阪府教育委員会文化財保護課技師 藤沢真依を担当者として実施した。
3. 現地での発掘調査は平成 9年2月 10 日から3月 7 日まで実施した。出土遺物の整理 作業は文化財保護課資料係が担当し、 平成 11 年3月 31 日まで行った。
4. 本書の執筆および編集は藤沢および文化財保護課技師横田明、 地村邦夫、 井西貴子が行った。
5. 本書に用いた遺構写真は藤沢が撮影し、 遺物写真は出合明氏が撮影した。

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 第1章 遺跡の位置と環境 | 1 |
| 第2章 調査に至る経過 | 2 |
| 第3章 調査の方法 | 2 |
| 第4章 調査の結果 | 3 |
| 1. 基本層序 | 3 |
| 2. 第1面の調査 | 6 |
| 3. 第2面の調査 | 6 |
| 4. 第3面の調査 | 9 |
| 5. 第4面の調査 | 9 |
| 6. 第5面の調査 | 9 |
| 7. 第6面の調査 | 9 |
| 8. 第7面の調査 | 12 |
| 第5章 まとめ | 17 |

挿 図 目 次

| | |
|---|-----|
| 第 1 図 調査区位置図(S=1/2500) | 1 |
| 第 2 図 地区割り方法 | 2 |
| 第 3 図 第 4・5 層出土遺物実測図(S=1/4) | 3 |
| 第 4 図 第 8 層出土遺物実測図(1)(S=1/4) | 4 |
| 第 5 図 第 8 層出土遺物実測図(2)(S=1/4) | 5 |
| 第 6 図 西壁土層断面図(S=1/40) | 6 |
| 第 7 図 調査区地区割り図(S=1/300)、第 1・6・7 面遺構平面図(S=1/150) | 7・8 |
| 第 8 図 第6面 SX02 ~ 05 埋土断面実測図(S=1/20) | 10 |
| 第 9 図 第6面遺構出土遺物実測図(S=1/4) | 11 |
| 第 10 図 第7面 SK10 遺構平面・埋土断面実測図(S=1/20) | 12 |
| 第 11 図 第7面 SK10・15 出土遺物実測図(S=1/4) | 13 |
| 第 12 図 第7面 SD11 出土遺物実測図(1)(S=1/4) | 14 |
| 第 13 図 第7面 SD11 出土遺物実測図(2)(S=1/4) | 15 |
| 第 14 図 第7面 SD11 遺構平面図(S=1/60)・断面実測図(S=1/20) | 16 |
| 第 15 図 第7面 Pit14 出土遺物実測図(S=1/4) | 17 |
| 第 16 図 第7面 SK17 出土遺物実測図(S=1/4) | 17 |

図版目次

- 図版1 調査区西壁断面(東から)
調査区東壁断面(西から)
- 図版2 第1面全景(西から)
第1面全景(東から)
井戸(南から)
- 図版3 第6面全景(西から)
SX02(西から) SX03(西から)
SX04(西から) SX06(西から)
- 図版4 第7面全景(西から)
第7面全景(東から)
- 図版5 SK10(北から)
SK10遺物出土状況(南上から)
- 図版6 SD11・12遺物出土状況(北から) 同左(北から)
SD11・12遺物出土状況(南から) 同左(東から)
Pit13・14、SK15・16(東から) SK18・19(西から)
- 図版7 遺物(1)
- 図版8 遺物(2)
- 図版9 遺物(3)

第1章 遺跡の位置と環境

木の本遺跡は大阪府八尾市南木の本を中心にひろがる遺跡で、弥生時代中期から近世に至る幅広い時代に属する遺構・遺物が確認されている。東には生駒山地、南には金剛山地を臨み、河内平野を横切るように流れる大和川は目前である。

河内という名が示すように、この地域の歴史はそのまま治水の歴史でもあった。人々のたゆまぬ努力によって陸地の拡大が進行した。弥生時代以降、砂州の上に数多くの集落が営まれた。木の本遺跡もそんな遺跡のうちのひとつである。

現在の大和川は近世以降の姿であり、17世紀までの流路は大和から生駒の山並みを抜けた後、柏原付近から北上、途中二股にわかれながら大東市付近まですすみ、西へ向きを変えて大阪湾に流れ込んだのであった。当時は流域面積が広域にわたることもあり、流域の人々は、常に水害の被害を受けなければならなかつたのである。

江戸時代になって、人々の努力により現在の流路に付け替えられると、地盤は安定し、旧流路流域で広大な耕地の開拓が可能となった。木綿などの河内の特産品生産も農業基盤の安定の成果で、河内地域に新たな発展をもたらす原動力となつた。

この地域の歴史を物語るかのように、平野川流域の調査では、縄文時代晚期～近世におよぶ多様な遺構・遺物が発見されている。今回、報告に掲載した調査地点は、南木の本2丁目の平野川の護岸および河道内部分にある。



第1図 調査区位置図(S=1/2500)

第2章 調査に至る経過

平野川は大和川から分岐する支流のひとつで、現在は柏原市古町付近で大和川からわかれ、八尾市、大阪市平野区、生野区、東成区を経て、森ノ宮で第二寝屋川に合流する。上流から下流にかけて地域毎に、別称がある。平野川と呼ばれるのは平野郷を過ぎてからで、上流域の当地域では了意川と呼ばれる。

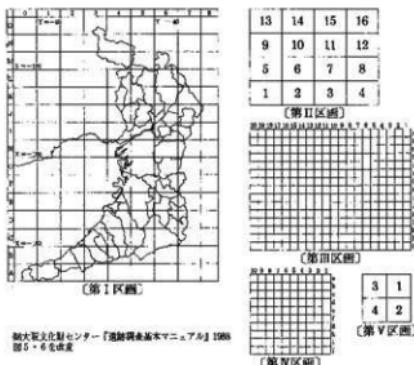
この平野川は、長年の土砂の堆積によって底が浅い上に、幅が狭く、大雨の際には一気に大量の雨水が流入する河川だった。周囲の冠水を防止するために、大阪府土木部は数年前から計画的に河川改修工事の実施を計画した。工事は川幅を拡幅し、川底を掘り下げる工事だった。木の本遺跡は弥生時代中期から近世にかけての遺跡であり、文化財保護課と土木部は遺跡の取り扱いについて協議を行った。まず試掘調査を実施し、遺構の有無などを確認の上、必要なところから調査を実施する運びとなった。

第3章 調査の方法

大阪府教育委員会が使用している調査の地区割りは、大阪府下の1/2500の地形図を基に地形図番号を大区画とし、国土座標値を基準とした中小区画により10m単位の地区表示を行うものである。今回の調査区の国土座標値は、東辺がY=-37,322、西辺がY=-37,362、南辺がX=-155,050～-155,055、北辺がX=-155,045～-155,050付近である。10mの地区割り表示はG6-2-f14-e3～e7、f3～f6地区となる。

改修工事は南に僅かに湾曲している川を真っ直ぐに付け替える工事である。幅5m、長さ40mの約200平方メートルの工事範囲を囲うように矢板を立て込んでいる。川の中央部が調査区の南辺となり、北辺は右岸部分である。そのため調査区の北半分は右岸部分であり、南半分は河川流路内である。

調査は、バックホウにより河川流路内の堆積物（主にはヘドロである。）の除去を行い、最下部を一部残すことにより始めた。まず、機械掘削土の残りを丁寧に人力により除去し、第一面とした。以下、1層ごとに掘削し、それぞれの土層の下面を遺構面とした。ただし、第4層は土層が比較的厚かったため2分し中間面を第3面とし、第7層下面については部分的であったことから面として数えていない。第8層までを人力により掘削し第7面までを調査した。



第2図 地区割り方法

第4章 調査結果

1. 基本層序

調査の結果確認した土層は9層で、以下の通りである。

第1層 川岸部の盛土・旧表土・ヘドロである。現地表面の標高はT.P.+9.60 mを測り、盛土旧表土上の層厚は約0.8 mである。ヘドロの層厚は川道最深部で約0.6 mである。

第2層 灰白色砂(2.5GY 8/1)であり、上面の標高はT.P.+8.25 mを測る。層厚は0.2 mであり、調査区南半部旧平野川底の堆積である。遺物は近世の染付陶などが出上した。

第3層 緑灰色粘土(10GY 6/1)であり、上面の標高はT.P.+8.80 mを測る。層厚は0.3 mであり、調査区北半部で旧平野川の肩部を形成している。遺物は出土しなかった。

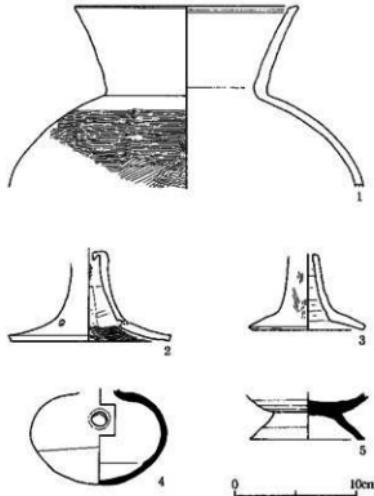
第4層 緑灰色粘土(10GY 6/1)と灰色粘土(7.5Y 4/1)のブロック層であり、上面の標高はT.P.+8.50 mを測る。層厚は0.5 mであり、遺物は古墳時代の土師器、須恵器の小破片が少量出上したのみである。

第5層 黒褐色粘土(2.5Y 3/2)であり、上面の標高はT.P.+8.00 mを測る。層厚は0.15 mである。遺物は第4層とほとんど同じで古墳時代の土師器、須恵器が出土した。土師器は庄内式上器および布留式土器であるが、小片のため、図示できるものは非常に限られている。須恵器は5世紀後葉～6世紀代のものが主体を占める。

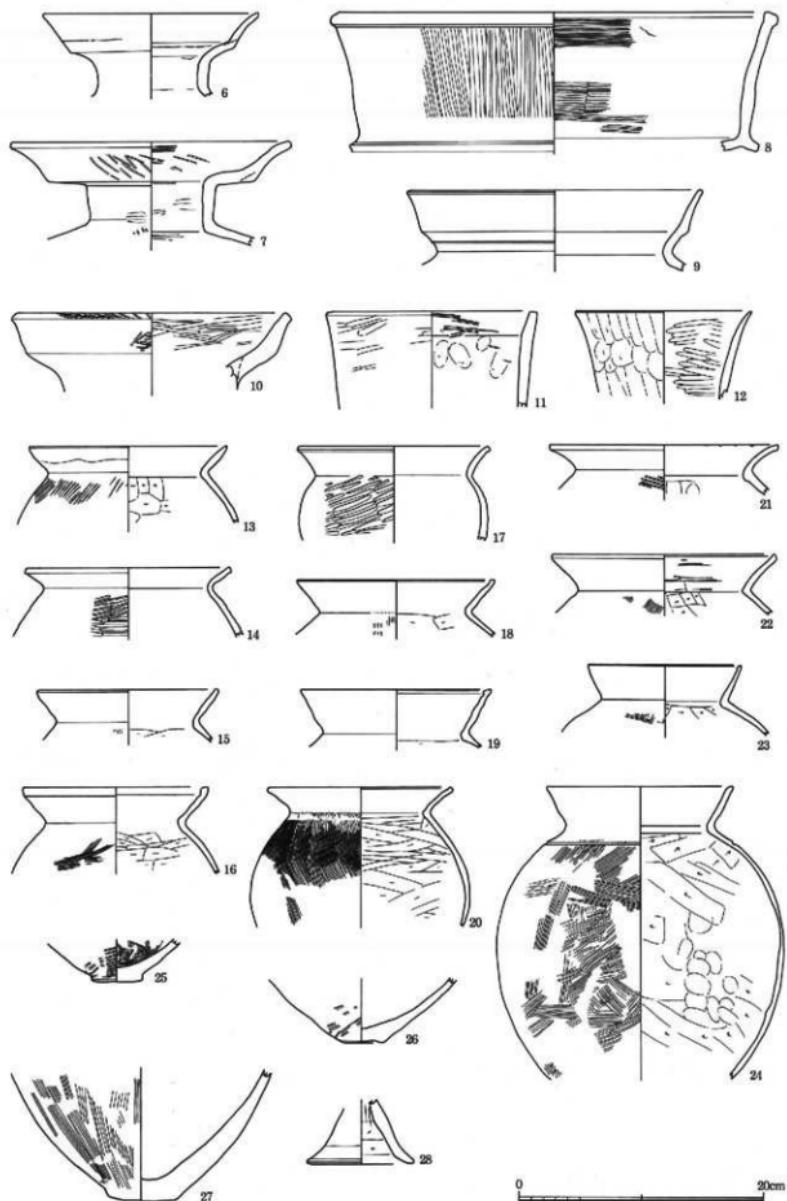
第6層 調査区北半部に堆積した灰色砂(N6/)であり、上面の標高はT.P.+7.90 mを測る。層厚は0.1 mである。遺物は少量の布留式土器と数点の須恵器破片を土した。その他には縄文時代晚期の突帯文土器片が極少量出土した。

第7層 調査区西北端から東南端に溝状に堆積した青灰色粘土(10BG5/1)であり、上面の標高はT.P.+7.80 mを測る。層厚は0.2 mである。

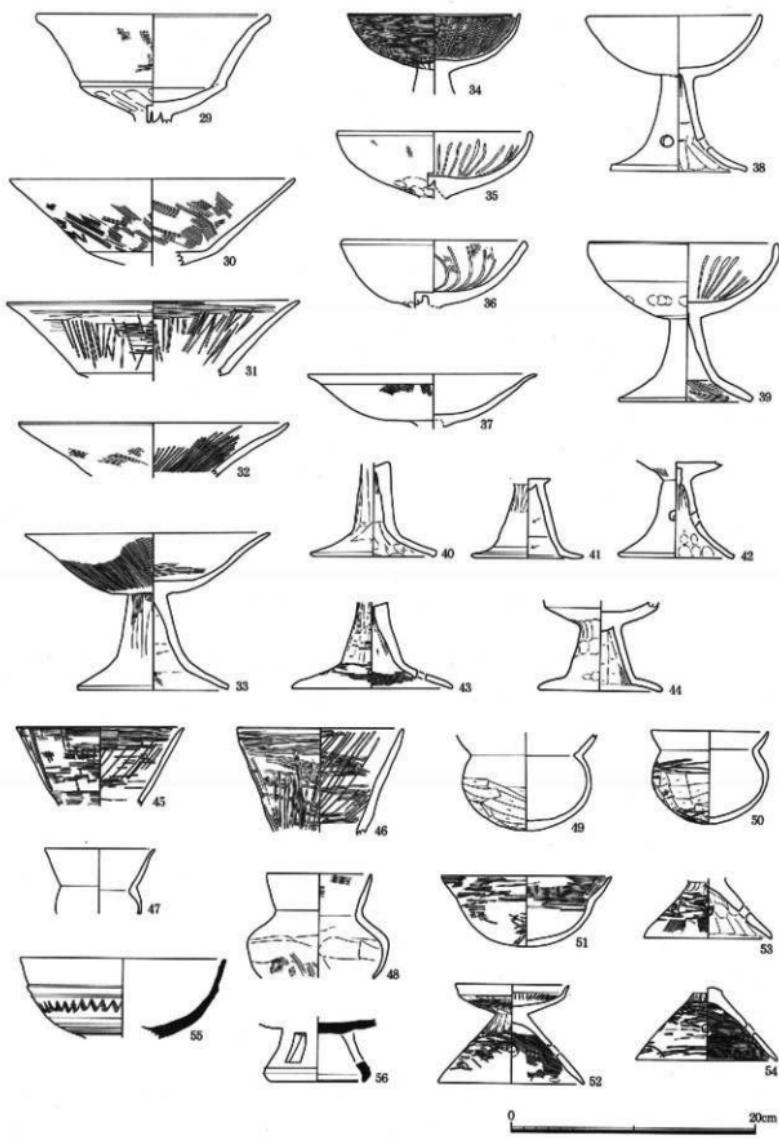
第8層 暗灰色粘土(N3/)であり、上面の標高はT.P.+7.80 mを測る。層厚は0.2 mである。古墳時代の土師器が多量に出土した。庄内式土器および布留式土器があるが、壺、甕、高杯、鉢、器台など主要な器種はほぼ揃っている。須恵器も出土しているが、図示し得たものは高杯(第5図55,56)だけである。これらはTK23型式前後に比定できる。本層にはこうしたTK23型式からMT15型式の須恵器がごく少量だが混入している。本層直下の第7面の遺構出土遺物に若干の須恵器の混入が認められるのも、遺構埋土上層が本層に由来するからである。



第3図
第4・5層出土遺物実測図(S=1/4)

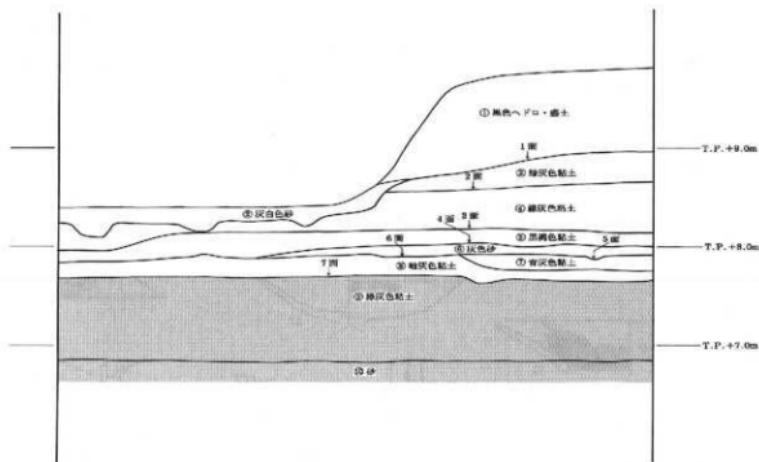


第4図 第8層出土遺物実測図(1)(S=1/4)



第5図 第8層出土遺物実測図(2)(S=1/4)

第9層 緑灰色粘土(10GY 6/1: 同色砂混じり)であり、上面の標高はT.P.+ 7.50mを測る。層厚は0.7mである。遺物は出土しなかった。



第6図 西壁土層断面図(S=1/40)

2. 第1面の調査

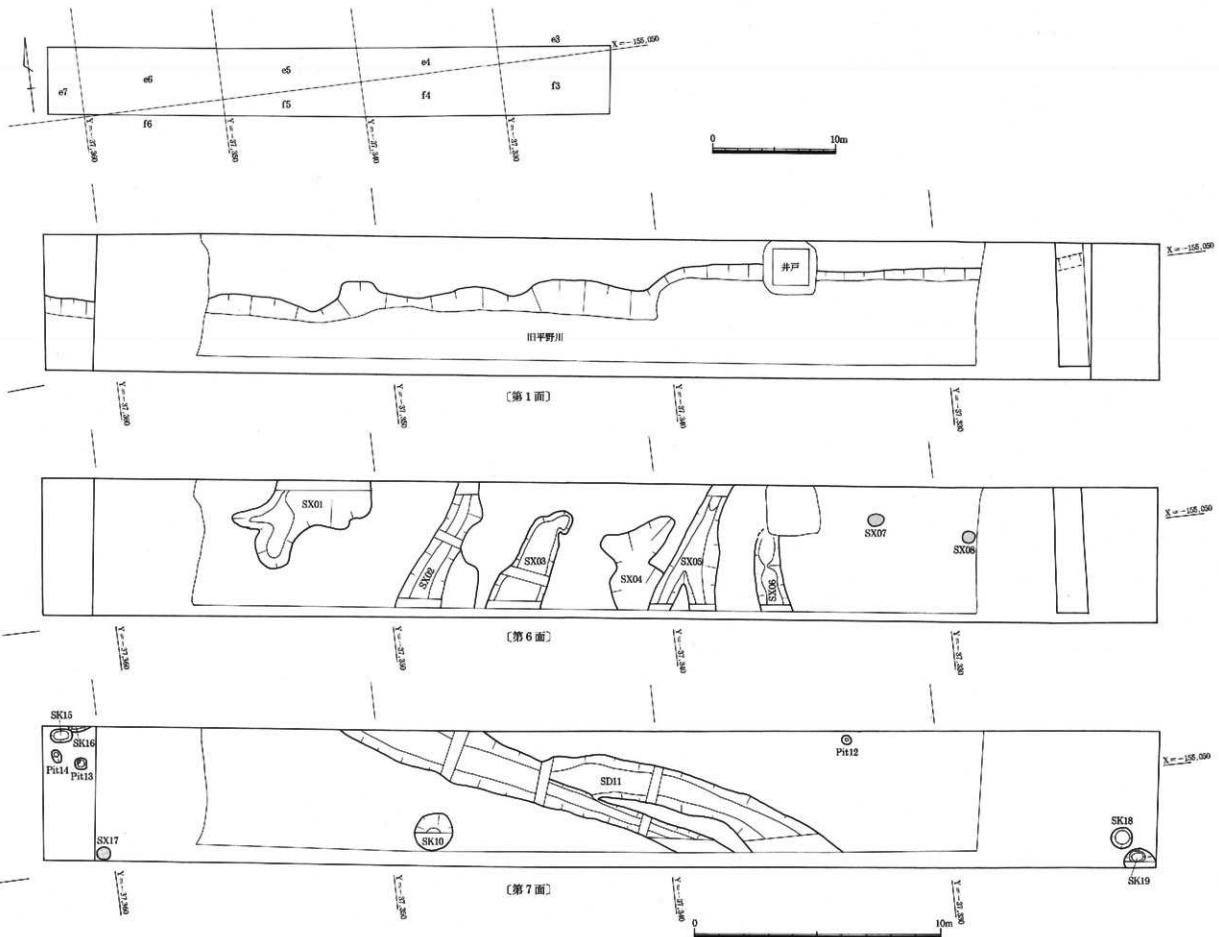
調査区北半部の右岸部分の盛り土を除去した段階で表れた第3層緑灰色粘土(10GY6/1)上面で、近世～近代の面と考えられる。検出した遺構は木組みの井戸と旧平野川である。

井戸はG6-2-f14-e4区北辺に接しており、各辺がほぼ東西南北に面している。掘り形1辺約2mの方形で、上部構造は4隅に角材を立て込み、ほぞ穴に横木を渡し縦板を張り付けてある。下部は縦板を桶状に円形に巡らしている。掘削時期は明らかにできなかったが、桶状部分に板材で蓋をし上部を埋めているが、埋土が右岸部分への盛り土とは全く異なった灰黒色土であることから、埋められたのは右岸部分への盛り土が行われる以前水田等として利用されていた時期のようである。

旧平野川は、調査区南半部であり、東西方向に伸びている。現平野川とほとんど重なるが、調査区東側で僅かに北にずれている。幅4.0m以上、長さ約40m、深度0.7m、埋土は第2層白色砂(2.5GY8/1)である。遺物は近世の染付碗などが出土した。

3. 第2面の調査

第3層を除去した第4層緑灰色粘土(10GY6/1)と灰色粘土(7.5Y4/1)のブロック層上面で、調査区北半部の右岸部分でのみ確認した面である。標高は、東西方向では西端から12mがT.P.+8.4m、中央部約14mがT.P.+8.5～8.6m、東端部が8.25mと僅かに波打っている。南北方向は距離的に1～2mと短いが、川に近い部分が0.1m程度低い。遺構は検出できなかった。



第7図 調査区地区割り図(S=1/200) 第1・6・7面遺構平面実測図(S=1/100)

4. 第3面の調査

第4層緑灰色粘土(10GY6/1)と灰色粘土(7.5Y4/1)のブロック層の中間面で、多少ブロックの量的に異なる部分で面として調査した。面の標高はT.P.+8.1~8.2mと全体的に平坦である。遺構は検出できなかつた。

5. 第4面の調査

第4層を除去した第5層黒褐色粘土層(2.5 Y 3/2)上面で、平野川の痕跡がなくなり、調査区全体に面が広がっている。面の標高は T.P.+7.85 ~ 7.95 mと平坦である。遺構は検出できなかつた。

6. 第5面の調査

第5層を除去した面で全体的には第7層青灰色粘土(10BG5/1)・8層暗灰色粘土(N3/)上面であるが、調査区西端から12~23m付近の調査区北辺から2~3mが第6層灰色砂(N6/)上面である。面の標高は西端でT.P.+7.70m、西端から12~23m付近までT.P.+7.9m、東は緩やかに下がりT.P.+7.6mとなつていて。中央部の高い部分は第6層上面であり、第6層は南端では途切れしており、0.1~0.15m低くなつていて。南北方向にはあまり明確な変化はない。SX01~09はこの面で検出したのであるが、実は第6面の遺構でありSX02~05は第6層が多少厚く堆積した部分の上部が下層の影響でできたくぼみに第5層が溜まったものをこの面での遺構として調査したものである。

7. 第6面の調査

第6層を除去した第7層青灰色粘土(10 BG 5/1)・8層暗灰色粘土(N 3/)上面で、古墳時代前期~中期の遺構面と考えられる。標高は西端でT.P.+7.7 m、西端から12~23m付近までT.P.+7.8 m、東は緩やかに下がりT.P.+7.6 mとなつていて。南北方向にはあまり明確な変化はない。遺構としては幅1.0~2.0 m、深度0.1~0.3 mの東北から南西方向に伸びる溝状遺構を4条と不定形の落ち込み2カ所を検出した。自然流路の跡と考えられるが、方向は現在の流れとはまるで異なつていて。

SX01 G6-2-F14-e6 区北西辺で検出した不定形の落ち込みで、北側は調査区外に延びている。東西約5m、南北約3m、深度0.2mを測る。肩部の標高は北端でT.P.+7.75 m、南端でT.P.+7.75 mを測る。底部標高は北端でT.P.+7.40m、南端でT.P.+7.60m、断面形状は浅い皿状である。埋土は2層で下部に薄く灰色砂、上部に黒褐色粘土が堆積している。遺物は土師器壺、甕、高杯などが出土地した(第9図57、58、65)。壺には口縁が大きく開くもの(57、58)を図示したが、二重口縁壺も出土している。甕は小片のため図示していないが庄内甕と・様式系甕がある。高杯は破片が数点出土しているにすぎないが、脚部が遺存する(65)を図示した。時期の判別できない小片も少なくないが、主体は庄内式土器であると考えられる。また須恵器甕あるいは壺の体部片が出土しているが、上層の混入である可能性が高い。

SX02(第8図) G6-2-F14-e5、f5 区東端で検出した調査区を横断する溝状の落ち込みである。南

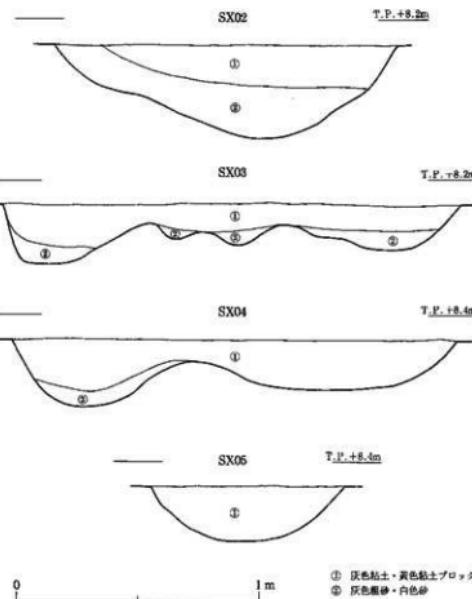
北両端は調査区外に続く。検出長4m、幅1.5~3m、深度0.3mを測る。肩部の標高は北端でT.P.+7.80m、南端でO.P.+7.65mを測る。底部標高は北端でT.P.+7.55m、南端でT.P.+7.50m、部分的に深いところが數カ所ありT.P.+7.40mを測る。断面形状は浅い皿状である。埋土は2層で下部の深い部分に灰色粗砂・白色砂、上部に灰色粘土・黄色粘土ブロックが堆積している。遺物は土師器壺、甕、高杯が出土した（第9図59、64）。壺には二重口縁壺（59）の他、直口壺がある。甕は庄内甕（64）のみが出土している。

SX03（第8図）G6-2-F14-e5、f5で検出した南北方向に伸びる溝状の落ち込みである。南端は調査区外に続く。検出長3.5m、幅1.8m、深度0.25mを測る。肩部の標高は北端でT.P.+7.90m、南端でT.P.+7.75mを測る。底部標高は北端でT.P.+7.70m、南端でT.P.+7.45mを測る。断面形状は浅い皿状である。埋土は2層で、下部に灰色粗砂・白色砂が0.1m、上部に灰色粘土・黄色粘土ブロックが堆積している。遺物は土師器壺、甕、高杯などが出土した（第9図）。大半が小片のため図示できたのは甕（61）のみである。他に小型丸底壺や二重口縁壺になると思われる大型壺の体部片がある。また須恵器片が1片出土しているが、上層からの混入と考えられる。

SX04（第8図）G6-2-F14-f5区で検出した不定形の落ち込みである。南端は調査区外に続く。検出長3.5m、幅1.8m、深度0.25mを測る。肩部の標高は北端でT.P.+7.75m、南端でT.P.+7.75mを測る。底部標高は北端で

T.P.+7.70m、南端でT.P.+7.50mを測る。断面形状は浅い皿状である。埋土は2層で下部に薄く灰色砂、上部に黒褐色粘土が堆積している。遺物は土師器壺、甕、高杯などが出土した（第9図63）。壺には二重口縁壺の破片が多く、小型、大型ともに出土しているが、このうち大型で太頭のものは鉢の可能性もある。甕は庄内甕（63）を図示したが、布留甕も1片だけが出土している。高杯は脚柱部片のみが出土した。

SX05（第8図）G6-2-F14-e4、f4区で検出した調査区を南北にほぼまっすぐに横断する溝状の落ち込みである。北は1条であるが、中央部で東に分岐し2条に分かれている。

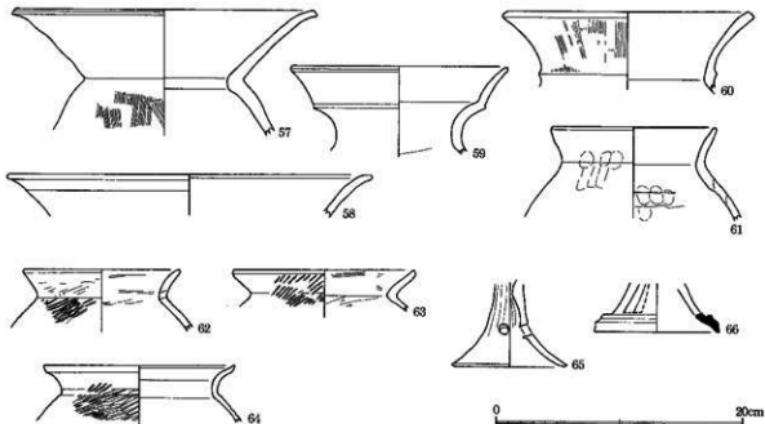


第8図 第6面SX02～05埋上断面実測図(S=1/20)

南北両端は調査区外に続く、検出長4m、幅0.8~2m、深度0.3mを測る。肩部の標高は北端でT.P.+7.75m、南端でT.P.+7.50mを測る。底部標高はT.P.+77.45m、南端西側でT.P.+7.40m・東側でT.P.+7.50mを測る。断面形状は浅い皿状である。埋土は2層で下部に薄く灰色砂、上部に黒褐色粘土が堆積している。遺物は少量の布留式土器と庄内式土器を出土した。

SX06 G6-2-F14-e4区で検出した構造の落ち込みである。北端は第1面で検出した井戸に切られ不明であり、南端は調査区外に続く。検出長2.5m、幅1m、深度0.25mを測る。肩部の標高は北端でT.P.+7.75m、南端でT.P.+7.65mを測る。底部標高はT.P.+7.55m、南端でT.P.+7.45mを測る。断面形状は浅い皿状である。埋土は2層で下部に薄く灰色砂、上部に黒褐色粘土が堆積している。本遺構はSX04と接しており、上層はSX04埋土と同じであることから埋没時期は同時であると考えられる。一方、下層はSX04には認められないことから、本遺構はSX04に先行するものと考えられる。遺物は土師器壺、甕、鉢などのほか、須恵器高杯などが出土した(第9図60、62、66)。壺は(60)のみを図示したが、別個体の破片も出土している。甕は・様式系甕(62)が出土している。鉢には小型二重口縁鉢の口縁部片が出土している。時期の明かなものについては、庄内式土器、もしくは布留式土器でも古い段階に限られている。なお須恵器高杯は(66)の脚部1点のほか、同一個体かどうかは不明だが口縁部片1点が出土している。脚部(66)はMT15型式に比定され、低脚1段透かし高杯でも最も新しいものと考えられる。口縁部片は小片のために断定はできないが、同時期の低脚1段透かし高杯と考えても矛盾はない。他の遺物より明らかに後出するもので、上層からの混入の可能性が高い。

SX07 G6-2-F14-e4区で検出した遺物である。出土状況は平坦な遺構面上にのっているだけである。遺物は須恵器の壺である。



第9図 第6面遺構出土遺物実測図(S=1/4)

SX08 G6-2-F14-f3区で検出した遺物である。出土状況は平坦な遺構面上にのっているだけである。遺物は土師器壺、須恵器の高杯の脚部である。

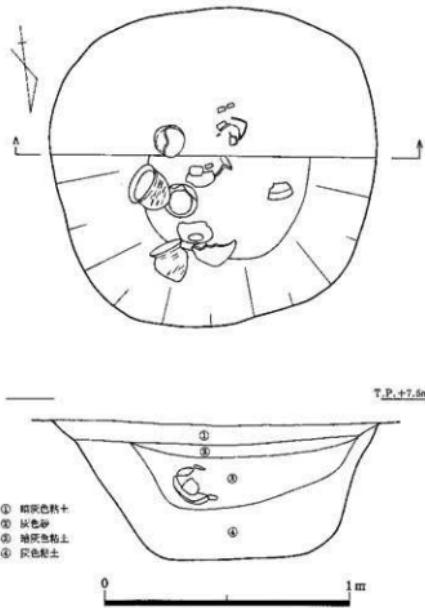
8. 第7面の調査

第9層緑灰色粘土(10GY 6/1:同色砂混じり)上面で、弥生時代末～古墳時代初頭の遺構面と考えられる。遺構は溝2条、井戸1基、ピット1基を検出した。面の標高は西端でT.P.+7.50m、東へは緩やかに下がっていきT.P.+7.40mとなっている。南北方向にはあまり明確な変化はない。遺構は溝と土坑を検出した。西北端から東南端を結ぶ溝と中央部から伸びる溝の2条がある。前者が後者を切っている。各遺構からは多量の庄内式土器が出土した。第7層は第7面の溝の影響で第8層が僅んだ部分に堆積した土層であることが第7面の調査結果から明らかになった。

SK10 (第10図) G6-2-F14-f5 区南端で検出した円形の土坑である。直径1.3m、深度0.6mを測る。断面の形状は口を開いたU字形である。肩部の標高はT.P.+7.4m、底部の標高はT.P.+6.85mを測る。埋土は4層で、①暗灰色粘土が全体に0.1m、②灰色砂が中央部に薄く0.05m、③暗灰色粘土が中央部に0.2～0.25m、④灰色粘土が全体に0.2～0.25m堆積している。遺物は、③、④から出土した。いずれも庄内式土器であるが、第V様式系の壺(70、71、73、74、76)のタキは依然太く、庄内壺(23)も体部最大径が体部上位にあり、肩が張る器形で古相を保っている。

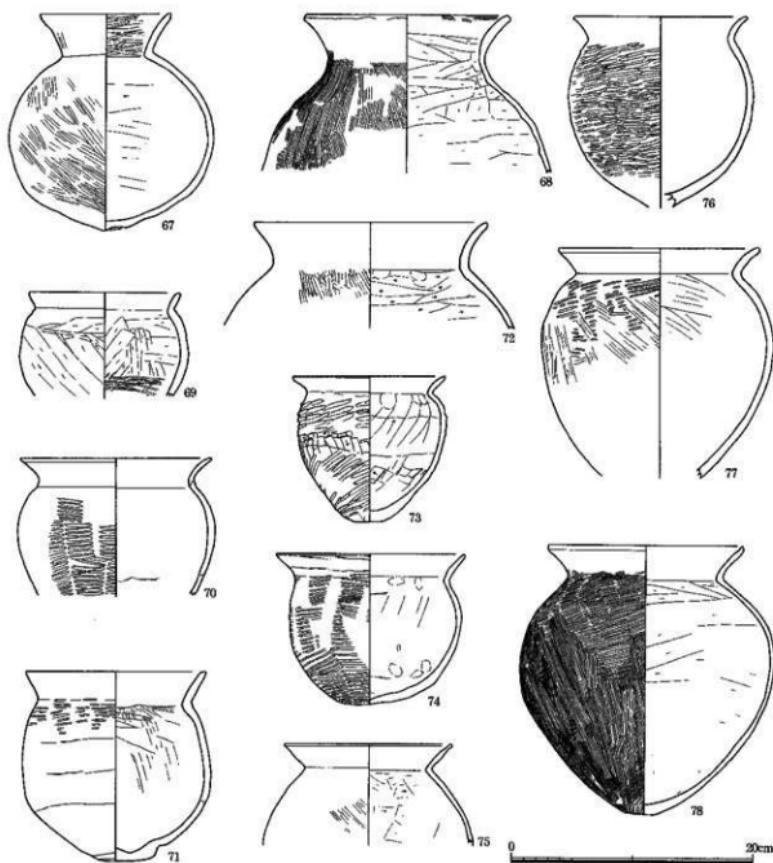
なお本遺構は、壁面が第9層の粘土層であることから土坑としたが、底部より約0.1mで下層の砂になる。発掘調査中にはこの状態でも水が湧いていたので、井戸であった可能性も考えられる。

SD11 (第14図) G6-2-F14-e6 区北辺から東南東に伸び、調査区を斜断してG6-2-F14-f4 区に続ぐ溝である。G6-2-F14-f5 区で2条に分岐し、並行している。端はすべて調査区外に続いている。検出長17m、幅1.4～1.9m、深度0.1～0.35mを測る。肩部の標高は、西端でT.P.+7.35m、中央部で東端は北でT.P.+7.30m・南でT.P.+7.20mを測る。溝底部の標高は東・西端で共にT.P.+7.10mを測る。断面の形状は2段になっており、下部は幅0.5m、深度0.1mの逆台形、上部は深度0.25mの浅い皿状になっている。埋土は



第10図 第7面SK10遺構平面・埋土断面実測図(S=1/20)

は G6-2-F14-6e 区では3層で、①第8層暗灰色粘土(N 3/)が②・③層を削り込んだように中央部に幅1.2m・深度0.2m、②灰黒色粘土が①層の両側に0.1~0.15m、③灰色粘土(N 6/)が中央部を①層に削られたように0.15m・両端は②層の下に0.1m堆積している。3層とも、人為的に埋めた上ではなく、自然堆積と考えられる。分岐したG6-2-F14-5e~4e区では、西南部分の溝内埋土は③のみで、東北部分の溝内埋土は①・②のみである。このことから、SD11は元々真っ直ぐ伸びていたものが、屈曲したものである。両溝からは壺、甕、高杯、鉢、器台など多量の土師器が出土した(第12図79~89、第13図90~120)。壺には小型丸底壺(79)、直口壺(96)、二重口縁壺(90~92)がある。甕はV様式系甕、庄内甕が大半を占めるが、庄内甕のうち、体部下



第11図 第7面SK10-15出土遺物実測図(S=1/4)

位まで遺存している(102)は体部最大径が体部中位あり、肩部の張りが弱い。二重口縁甕(93～95)は口縁部径が25～30cmと大型である。これらは庄内式土器の新しい段階を中心位置づけられるものであろう。小量ながら布留甕(110)も出土しており、甕(106)も布留式土器の古い段階に比定される。高杯には通有のものが多く出土しているが、いずれも小片のため脚部のみを図示した(118、120)。他に庄内式土器の低脚高杯がある(116、117)。他に器台(83、84、119)、鉢(80～82)が出土している。本遺構から出土した土器は大半が庄内式土器としてとえられるものであるが、(102)にみえる庄内甕の様相や、小型丸底壺、小型器台、二重口縁鉢のいわゆる小型精製三器種が成立していることに加え、小量出土している布留式土器はいず

れも古相を示すことから、庄内式土器の新しい段階から布留式土器の古い段階にかけての土器群であると考えられる。

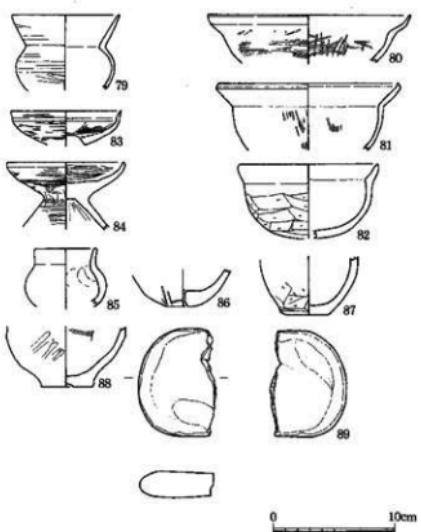
Pit12 G6-2-F14-e4で検出したピットである。平面形は円形で、規模は直径0.3m、深さ0.5mである。埋土は黒色粘土である。遺物は土師器片が小量出土した。

Pit13 G6-2-F14-e7区北端で検出した円形のピットである。直径0.45m、深度0.45mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で暗灰色粘土(N3/)である。遺物は土師器片が小量ではあるが出土した。

Pit14 G6-2-F14-e7区北端で検出した梢円形のピットである。長径0.45m、短径0.3m、深度0.3mを測る。埋土は1層で暗灰色粘土(N3/)である。遺物は土師器壺が出土した(第15図121)。同一個体かどうかは不明だが、大型の壺体部片も出土している。

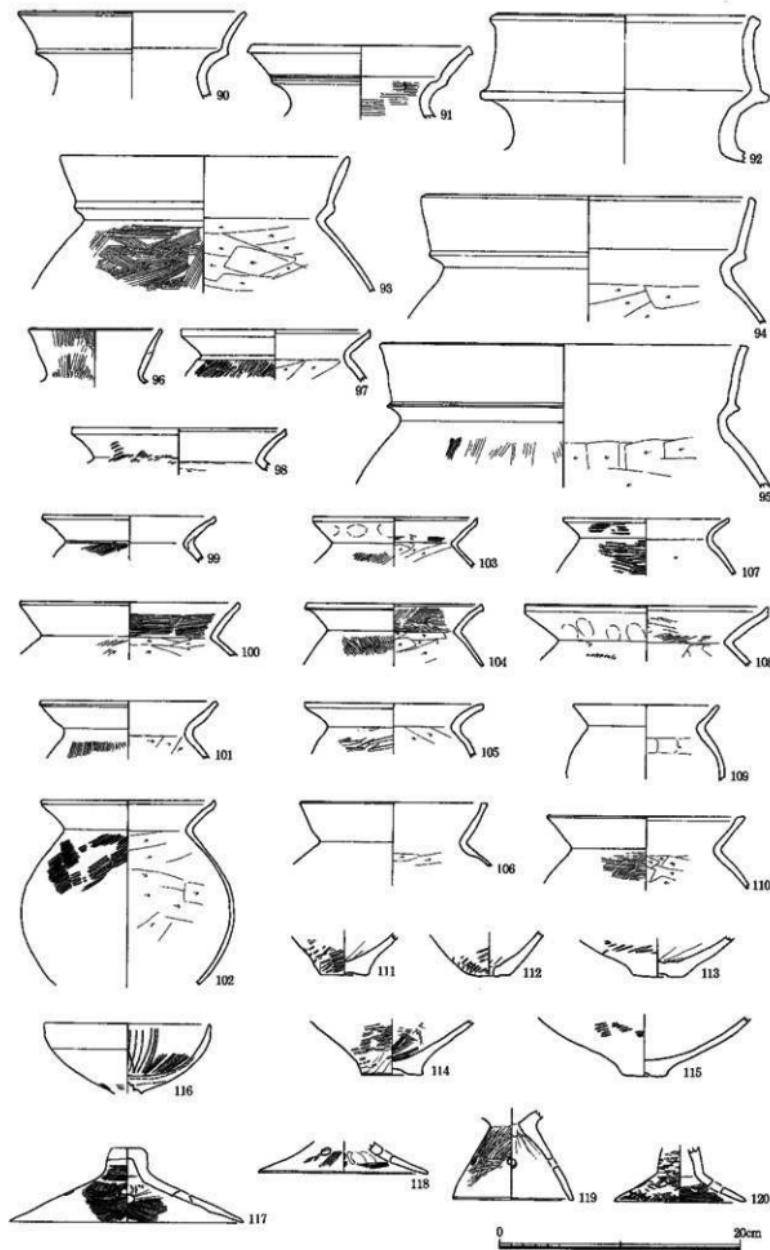
SK15 G6-2-F14-e7区北端で検出した梢円形の土坑である。長径0.75m、短径0.5m、深度0.5mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で暗灰色粘土(N3/)である。遺物は土師器壺、甕、高杯が出土した。いずれも小片のため、図示したのは小型壺(69)と甕(75)の2点のみである。甕(75)は口縁端部はわずかに丸く肥厚し、肩部の張りも弱く、外面調整はハケメが肩部付近に確認される。布留式土器でも古い段階と見られる。

SK16 G6-2-F14-e7で検出した土坑である。調査区の北端部にかかるており、大半は調査区外に延びるため、平面形、規模とも不明であるが、残存部の深さは0.15mである。埋土は暗灰色粘土で

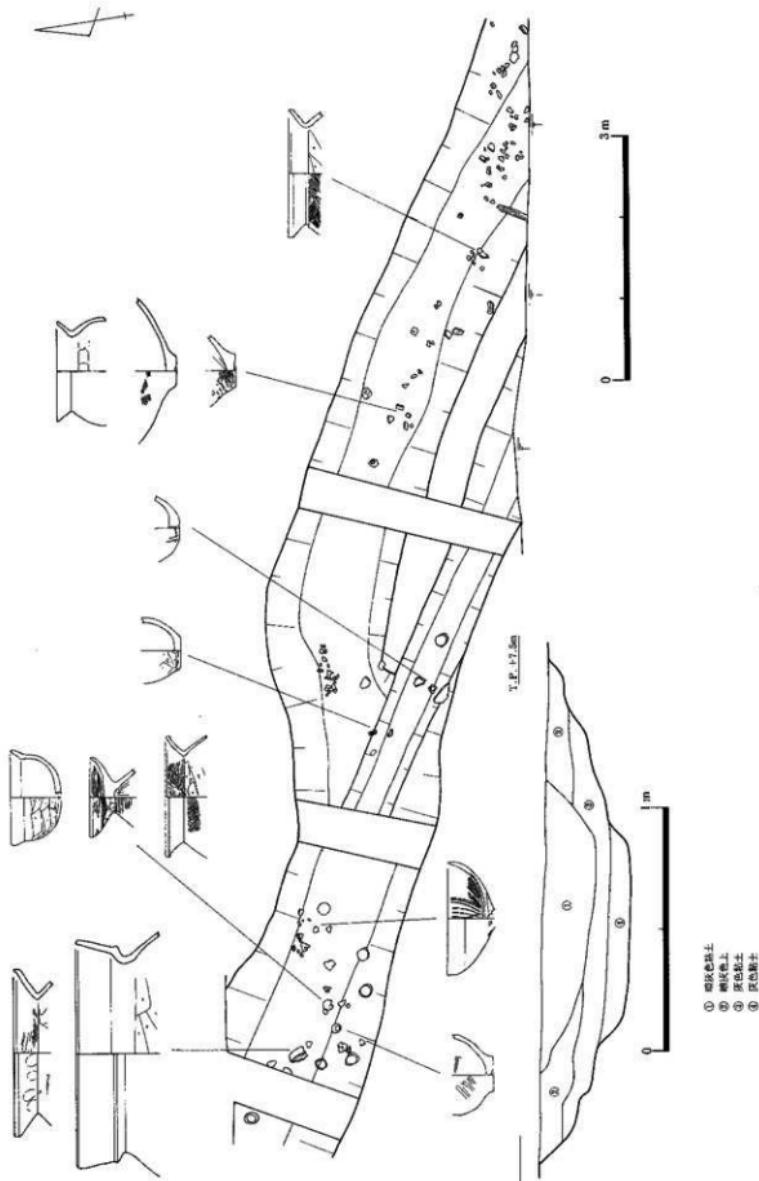


第12図 第7面SD11出土遺物実測図(1)(S=1/4)

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89)



第13図 第7面SD11出土遺物実測図(2)(S=1/4)



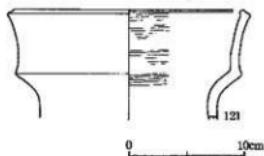
第14図 第7面SD11構造平面図(S=1/60)・断面実測図(S=1/20)

ある。遺物は出土しなかった。

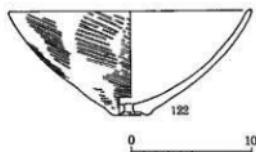
SX17 G6-2-F14-e7 で検出した土器群である。遺物は土師器壺、甕、高杯、鉢が出土した。鉢（第16図122）は外面にタタキを残すもので、底部中央には孔を有する。他の土器についてはいずれも破片のため詳細は不明であるが、いずれも庄内式土器であると考えられる。

SK18 G6-2-F14-f3 で検出した土坑である。平面形は円形で、規模は直径 0.7m、深さ 0.64m である。埋土は暗灰色粘土である。遺物は土師器壺、甕が出土した。小片のため図示できないが、いずれも庄内式土器で、直口壺、庄内甕、V 様式系甕がある。

SK19 G6-2-F14-f3 で検出した土坑である。南半部は調査区外に延びるため正確な平面形、規模は不明だが、検出長 1.2m、検出幅 0.65m、深さ 0.74m である。埋土は暗灰色粘土である。遺物は土師器甕などが出た。小片のため図示できないが、甕は庄内甕である。他に高杯かと思われる破片がある。



第15図 第7面Pit14出土遺物実測図(S=1/4)



第16図 第7面SK17出土遺物実測図(S=1/4)

第5章まとめ

今回の調査である程度遺構の確認できた面は第1・6・7面である。

第7面で検出した遺構は溝・井戸・土坑であり、時期は弥生時代終末～古墳時代初頭である。検出した溝は東南～西北方向へ流れていたと考えられ、この地域での基本的な水の流れの方向と一致している。溝としたが、人為的なものではなく、自然の流路の可能性も考えられる。ただ遺物の出土量やその状態およびSD10が井戸の可能性を持つことからも、当時の居住域の縁辺と考えられる。第6面で検出した遺構は溝、溝状落込、不定形落込である。これらの遺構は第5層からは庄内式土器・布留式土器の他に6世紀代の須恵器が出土しており、時期は古墳時代前期～中期と考えられる。この時期の調査地は、遺物は出土するものの、居住域からは少し離れた地域となっていたようである。第4層からは鎌倉時代の遺物が出土しており、第3層からはほとんど遺物が出土していない。第2層からの出土遺物は近世～近現代まで含まれている可能性もあるが、流れ初めは近世と考えられる。

以上のように見ていくと、今回の調査地は古墳時代初頭までは居住域であったが、その後しばらくは、自然流路の存在などから居住域ではなくって、氾濫原となっていたものと思われる。再び人間が利用し始めるのは中世の段階になって生産域としてであったようである。明確な痕跡はないが微量の遺物がそのことを物語っている。近世以降、川が現在の流路付近に付け替えられたようである。その後今日まで河川として周辺田畠を潤していたのであろう。

調査及び報告書の作成にあたっては下記諸氏の協力を得た。記して感謝の意を表する。

岩瀬透、岡本悦子、亀島重則、小西隆之、柴田隆、西村文子、福井正明、藤川富久子

| 番号 | 種類 | 器種 | 法量 | | | 成形・調整 | |
|----|------|-------|--------|-------|--------|------------------------|------------------------------|
| | | | 口径 | 器高 | 底径 | 外面 | 内面 |
| 1 | 土師器 | 壺 | (18.1) | 残4.9 | | ハケメ | ヘラケズリ |
| 2 | 土師器 | 高杯 | | 残7.3 | (12.8) | ナデ | ハケメ |
| 3 | 土師器 | 高杯 | | 残6.1 | 9.0 | ヘラミガキ | ケズリ |
| 4 | 須恵器 | 壺 | | 残7.8 | | 回転ナデ | 回転ナデ |
| 5 | 須恵器 | 高杯 | | 残3.8 | (9.1) | 回転ナデ | 回転ナデ |
| 6 | 土師器 | 二重口縁壺 | 17.3 | 残6.8 | | ナデ | ナデ |
| 7 | 土師器 | 二重口縁壺 | (22.7) | 残8.6 | | ヘラミガキ | ヘラミガキ |
| 8 | 土師器 | 二重口縁壺 | (34.1) | 残11.5 | | ハケメ | ハケメ |
| 9 | 土師器 | 二重口縁壺 | (23.1) | 残6.6 | | ナデ | ナデ |
| 10 | 土師器 | 二重口縁壺 | (20.7) | 残6.4 | | 肩部;刺突 | ヘラミガキ |
| 11 | 土師器 | 壺 | (16) | 残8 | | ヘラミガキ | ハケメ、ユビオサエ |
| 12 | 土師器 | 壺 | (14.2) | 残7.2 | | ヘラケズリ | ヘラミガキ |
| 13 | 土師器 | 壺 | (16.0) | 残6.3 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 14 | 土師器 | 壺 | (9.0) | | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 15 | 土師器 | 壺 | (14.4) | 残4.3 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ナデ |
| 16 | 土師器 | 壺 | (14.8) | 残7.1 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキのひし;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 17 | 土師器 | 壺 | (15.2) | 残7.7 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ナデ |
| 18 | 土師器 | 壺 | (15.7) | 残4.8 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 19 | 土師器 | 壺 | (15.2) | 残4.8 | | ヨコナデ | ヨコナデ |
| 20 | 土師器 | 壺 | (14.6) | 残11.4 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラケズリ |
| 21 | 土師器 | 壺 | 18.4 | 残4.1 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキ | 口縁部;ハケメ、肩部;ヘラケズリ |
| 22 | 土師器 | 壺 | (18.0) | 残5.1 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 23 | 土師器 | 壺 | (12.3) | 残5.5 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラケズリ |
| 24 | 土師器 | 壺 | (16.6) | 残5.8 | | 口縁部;ヨコナデ、体部;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラケズリ、体部中央;ユビオサエ |
| 25 | 弥生土器 | 壺 | | 残3.5 | 4.15 | タタキ | ハケメ |
| 26 | 弥生土器 | 壺 | | 残5.1 | 3.6 | タタキ | ナデ |
| 27 | 弥生土器 | 壺 | | 残10.8 | 5.4 | ハケメ | |
| 28 | 土師器 | 脚部 | | 残5.3 | 8.2 | ナデ | ナデ |
| 29 | 土師器 | 高杯 | (13.7) | 残8.9 | | 杯部上半;ヘラミガキ、杯部下半;ユビナデ | ナデ |
| 30 | 土師器 | 高杯 | (23.0) | 残7.1 | | ハケメ | ハケメ |
| 31 | 土師器 | 高杯 | (23.6) | 残6.1 | | ハケメのちヘラミガキ | ハケメのちヘラミガキ |
| 32 | 土師器 | 高杯 | 2.8 | 残4.4 | | ハケメ | ヘラミガキ |
| 33 | 土師器 | 高杯 | (19.8) | 12.8 | (12.2) | ハケメ | 杯部;ハケメ、脚部;ナデ |
| 34 | 土師器 | 高杯 | 14.0 | 残6.6 | | ヘラミガキ | ハケメのちヘラミガキ |
| 35 | 土師器 | 高杯 | (15.7) | 残5.6 | | ハケメ | ヘラミガキ |
| 36 | 土師器 | 高杯 | (14.8) | 5.5 | | ナデ | ハケメのちヘラミガキ |
| 37 | 土師器 | 高杯 | 18.5 | 残4.3 | | ハケメ | ナデ |
| 38 | 土師器 | 高杯 | 13.7 | 12.8 | 11.0 | ナデ | ナデ |
| 39 | 土師器 | 高杯 | (15.1) | 13.1 | 10.6 | 杯部下半;ユビオサエ、脚部;ナデ | 杯部;ヘラミガキ、脚部;ハケメ |
| 40 | 土師器 | 高杯 | | 残7.6 | 8.8 | ヘラケズリ | ナデ |
| 41 | 土師器 | 高杯 | | 残6.5 | (8.9) | ヘラミガキ | ナデ |

観察表(1)

| 色調 | 粒上 | 焼成 | 残存率 | 実測番号 |
|---|------------------|-----|---------------|------|
| (内):10YR4/1灰白、(外):5YR7/6橙、(断):N7/灰白 | やや粗、長石・チャート含 | 良好 | 1/5 | 97 |
| (内)(外):2.5YR7/2灰黄、(断):7.5YR6/3にぶい楕 | 密 | 良好 | 3/5 | 43 |
| (内)(外):7.5YR7/3にぶい楕・5YR7/4にぶい楕、(断):7.5YR6/1褐色、5YR7/4にぶい楕 | 粗、長石・雲母含 | 良好 | 脚部 | 23 |
| (内):10YR4/1灰、(外):N5/0灰、5YR7/1灰白、(断):2.5GY6/1オーリーブ灰 | 粗 | 良好 | 体部 | 33 |
| (内):N7/0灰白、(外)(断):N7/0灰白 | 密、長石含 | 良好 | 脚部:1/3 | 1 |
| (内):10YR8/2灰白・7.5YR7/4にぶい楕、(外):10YR7/3にぶい楕・5YR6/6橙 | 粗、長石・石英含 | 良好 | 口縁1/3 | 34 |
| (内):10YR8/3浅黄橙、(外):2.5Y4/1黄赤、(断):7.5Y8/1灰白 | 密 | 良好 | 4/5 | 119 |
| (内):10YR4/2灰黄褐、7.5Y5/3にぶい楕、(外):10YR4/3にぶい黄褐、(断):7.5Y5/1褐色 | 密 | 良好 | 1/10 | 56 |
| (内):7.5YR2/1黒、(外)(断):7.5YR8/2灰白 | 密、長石・石英含 | 良好 | 1/5 | 58 |
| (内)(外):7.5YR7/6橙、(断):7.5YR8/6浅黄灰 | 密 | 良好 | 1/5 | 57 |
| (内)(外):7.5YR6/1にぶい楕、(断):7.5YR5/1褐色 | 密、長石・石英・くさり繊含 | 良好 | 1/5 | 49 |
| (内):7.5YR7/4にぶい楕、(外):10YR6/3にぶい黄赤、(断):5YR6/4にぶい楕 | 密、長石・石英・雲母含 | 良好 | 1/4 | 8 |
| (内)(外):2.5Y7/2灰黄、(断):2.5Y7/1灰白 | 密、長石含 | 良好 | | 101 |
| (内):5YR8/3淡橙・2.5Y8/3灰白、(外)(断):7.5YR7/3淡赤橙 | やや粗、長石・雲母含 | 良好 | 1/5 | 18 |
| (内)(外):7.5YR8/3浅黄橙・2.5YR7/4淡赤橙 | やや粗、長石含 | 良好 | 1/4 | 20 |
| (内)(外):10YR5/2灰黄褐、(断):10YR7/3にぶい黄橙 | 密、長石含 | 良好 | 1/4 | 94 |
| (内)(外):2.5Y8/2灰白、(断):2.5Y6/1黄赤・2.5Y7/4浅黄 | やや密、長石・チャート含 | 良好 | 1/8 | 19 |
| (内):7.5YR7/4にぶい楕、(外)(断):7.5YR7/3にぶい楕・10YR6/2灰黄褐 | やや粗、長石含 | 良好 | 1/4 | 21 |
| (内):2.5Y6/1黄赤、(外):2.5Y5/2暗灰黄・2.5Y5/1黄赤 | やや粗、長石・雲母含 | 良好 | 口縁部:1/4、肩部1/2 | 12 |
| (内):5YR8/3淡橙、(外):7.5YR7/4にぶい楕、10YR8/1灰白 | 粗、長石・雲母含 | 良好 | 1/7 | 5 |
| (内):10YR4/1褐色、(外):2.5YR4/2暗灰黄、(断):2.5YR5/2暗灰黄 | 密、長石・雲母・角閃石含 | 良好 | 1/3 | 9 |
| (内):7.5YR5/4にぶい楕、(外)(断):10YR5/3にぶい楕 | 密、長石・雲母含 | 良好 | 1/5 | 63 |
| (内)(外):5YR7/3にぶい楕、(断):10YR8/2灰白 | やや粗、長石・チャート含 | 良好 | | 100 |
| (内):7.5YR6/4、(外)(断):10YR6/2灰黄褐 | やや粗、長石含 | 良好 | 底部のみ | 10 |
| (内):10YR6/1褐色、2.5Y6/2灰黄、(断):7.5YR6/4にぶい楕 | やや密、長石・雲母含 | 良好 | 底部のみ | 15 |
| (内):10YR6/2灰黄褐、(外):7.5YR1/3にぶい黄褐、(断):10YR7/2にぶい黄褐 | 密、疊多く含 | 良好 | 1/5 | 71 |
| (内):6YR8/4暗橙、(外):7.5YR8/4浅黄橙、(断):5YR8/2灰白・N6/0灰 | 密 | 良好 | 脚部:辺延存 | 16 |
| (内)(外)(断):7.5YR6/6橙 | 密 | 良好 | 2/3 | 105 |
| (内)(外):10YR7/3にぶい黄赤・7.5YR7/6橙 | 密 | 良好 | 2/5 | 36 |
| (内)(外)(断):5YR5/4にぶい楕 | 密 | 良好 | 1/5 | 35 |
| (内):5YR7/6橙、(外):7.5YR6/6、(断):5YR7/8橙 | 密 | 良好 | 3/10 | 25 |
| (内):7.5YR7/4にぶい楕、(外):7.5YR5/6明褐、(断):7.5YR7/4にぶい楕 | 密、長石・石英・雲母・クサリ繊含 | 良好 | 1/10 | 108 |
| (内)(外):7.5YR6/2灰黄褐、(外):10YR2/1墨、(断):10YR6/2灰黄褐 | 密、石英・雲母含 | 良好 | 3/5 | 113 |
| (内)(外):7.5YR6/4にぶい楕、(断):10YR6/2灰黄褐 | 密 | 良好 | 1/3 | 90 |
| (内):10YR8/3浅黄橙、(外):2.5YR7/6橙、(断):7.5YR7/4にぶい楕 | 長石・チャート含 | 良好 | 1/5 | 91 |
| (内)(外):7.5YR6/4暗黄橙、(外):7.5YR7/4にぶい楕、10YR6/2灰黄褐 | 密、長石・石英・雲母含 | 良好 | 1/5 | 112 |
| (内)(外):5YR7/6橙、(断):10YR7/6明黄褐 | 密、長石・石英・雲母・クサリ繊含 | 良好 | 4/5 | 109 |
| (内)(外):10YR7/2にぶい黄褐、(断):7.5YR4/4褐 | 密、長石・石英含 | 良好 | 2/3 | 6 |
| (内)(外):2.5YR6/6橙、(断):10YR7/3にぶい黄褐 | やや粗、長石・石英・雲母含 | やや軟 | 1/2 | 111 |

| 番号 | 種類 | 器種 | 法量 | | | 成形・調査 | |
|----|-----|-------|--------|-------|--------|----------------------------|------------------------|
| | | | 口径 | 器高 | 底径 | 外面 | 内面 |
| 42 | 土師器 | 高杯 | | 残7.9 | (9) | ナデ | ユビオサエ |
| 43 | 土師器 | 高杯 | | 残7.0 | (13.0) | ハケメのちへラケズリ | ハケメ |
| 44 | 土師器 | 高杯 | | 残7.3 | (9.8) | ナデ;ユビオサエ | ナデ |
| 45 | 土師器 | 小型丸底壺 | (13.5) | 残6.4 | | ハケメのちへラミガキ | ハケメのちへラミガキ |
| 46 | 土師器 | 小型丸底壺 | 13.3 | 8.7 | | ハケメのちへラミガキ | ハケメのちへラミガキ |
| 47 | 土師器 | 小型丸底壺 | (8.8) | 残5.3 | | ナデ | ユビオサエのちナデ |
| 48 | 土師器 | 小型壺 | (8.6) | 残8.6 | | 口縁部;ヨコナデ、体部;ハケメ | 口縁部;ハケメ、体部;ヘラケズリ |
| 49 | 土師器 | 小型丸底壺 | | 残8.1 | | ヘラケズリ | ナデ |
| 50 | 土師器 | 小型丸底壺 | 9.45 | 7.6 | | ヘラミガキのちへラケズリ | ナデ |
| 51 | 土師器 | 鉢 | | 5.8 | | ハケメのちへラケズリ | ハケメ |
| 52 | 土師器 | 器台 | 9.1 | 8.1 | (11.7) | ヘラミガキ | 受部;ヘラミガキ、脚部;ハケメ |
| 53 | 土師器 | 器台 | | 残5.4 | 10.4 | ハケメのちへラミガキ | ナデ |
| 54 | 土師器 | 器台 | | 残5.5 | (11.4) | ヘラミガキ | ハケメ |
| 55 | 須恵器 | 無蓋高杯 | (16.5) | 残6.55 | | 回転ナデ | ナデ |
| 56 | 須恵器 | 高杯 | | 残5.1 | (15) | 回転ナデ | 回転ナデ |
| 57 | 土師器 | 壺 | (23.8) | 残10 | | 肩部;ハケメ | |
| 58 | 土師器 | 壺 | (29) | 残3.5 | | ナデ | ナデ |
| 59 | 土師器 | 一重口縁壺 | (17.1) | 残7.2 | | ナデ | 肩部;ケズリ |
| 60 | 土師器 | 壺 | (18.1) | 残6.8 | | 口縁部;ハケメ | 口縁部;ナデ、肩部;ケズリ |
| 61 | 土師器 | 壺 | (13.0) | 残7.7 | | 通部;ユビオサエ | 肩部;ユビオサエ |
| 62 | 土師器 | 壺 | (12.4) | 残5.2 | | 肩部;タタキ | ナデ |
| 63 | 土師器 | 壺 | (14.4) | 残3.4 | | タタキ | 口縁部;ハケメ、肩部;ヘラケズリ |
| 64 | 土師器 | 壺 | (15.4) | 4.8 | | タタキ | ナデ |
| 65 | 土師器 | 高杯 | | 残6.9 | (8.6) | ナデ | ナデ |
| 66 | 須恵器 | 高杯 | | 残5.1 | (10.0) | 回転ナデ | |
| 67 | 土師器 | 壺 | | 10.7 | 18.4 | コ縁部;ナデ、体部;ヘラミガキ | 口縁部;ヘラミガキ、体部;ヘラケズリ |
| 68 | 土師器 | 壺 | | 16.3 | 残13.3 | コ縁部;ナデ、体部;ハケメ | 口縁部;ハケメ、肩部;ヘラケズリ |
| 69 | 土師器 | 壺 | (12.2) | 残8.7 | | 乍部;ヘラケズリ | 体部;ヘラケズリ |
| 70 | 土師器 | 壺 | (15.4) | 残11.5 | | 口縁部;ヨコナデ、体部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ナデ |
| 71 | 土師器 | 壺 | (14.7) | 残4.7 | 4.6 | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ナデ |
| 72 | 土師器 | 壺 | (19.1) | 残9.0 | | コ縁部;ヨコナデ、肩部;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 73 | 土師器 | 壺 | | 12.6 | 12.3 | コ縁部;ヨコナデ、体部;タタキ、体部中央;ヘラケズリ | 口縁部;ヨコナデ、体部上半;ナデ、下半ケズリ |
| 74 | 土師器 | 壺 | | 15.3 | 12.6 | コ縁部;ヨコナデ、体部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ナデ |
| 75 | 土師器 | 壺 | (13.6) | 残8.6 | | 口縁部;ヨコナデ、体部;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラケズリ |
| 76 | 土師器 | 壺 | | 14.0 | 残16.1 | 口縁部;ヨコナデ、体部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ナデ |
| 77 | 土師器 | 壺 | (18.8) | 残19.5 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキのちハケメ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ナデ |
| 78 | 土師器 | 壺 | | 15.8 | 22.7 | 口縁部;ヨコナデ、体部;タタキのちハケメ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラケズリ |
| 79 | 土師器 | 小型丸底壺 | (8.8) | 残6.3 | | ヘラミガキ | ヘラケズリ |
| 80 | 土師器 | 鉢 | (16.5) | 残4 | | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラミガキ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラミガキ |
| 81 | 土師器 | 鉢 | (14.6) | 残5.5 | | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラケズリ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ハケメ |
| 82 | 土師器 | 小型丸底壺 | (11.3) | 残6.1 | | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラケズリ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ナデ |
| 83 | 土師器 | 器台 | (21.0) | 残2.8 | | 杯部;ヘラミガキ | 杯部;ヘラミガキ |
| 84 | 土師器 | 器台 | (9.6) | 残5.3 | | 杯・脚部;ヘラミガキ | 杯部;ヘラミガキ、脚部;ナデ |

観察表(2)

| 色調 | 船上 | 焼成 | 残存率 | 実測番号 |
|---|-----------------|-----|--------|------|
| (内)(断):7.5YR8/6浅黄橙、(外):2.5YR7/6橙 | 密、クリア被覆 | 良好 | 4/5 | 74 |
| (内)(外)(断):10YR7/3にぶい黄橙 | 密、長石含 | 良好 | 1/3 | 83 |
| (内)(外)(断):5YR8/2灰白 | 密、長石含 | 良好 | 1/8 | 84 |
| (内)(外):7.5YR6/4にぶい橙、(断):10YR7/2にぶい黄橙 | 密、長石・石英・クリア・雲母含 | 良好 | 1/4 | 48 |
| (内)(外):7.5YR6/4、(断):2.5Y8/2灰白 | 密 | 良好 | 1/3 | 26 |
| (内)(断):7.5YR7/3にぶい橙、(外):7.5YR7/4にぶい橙 | 密 | 良好 | 1/5 | 44 |
| (内):7.5YR6/4にぶい橙、10YR7/2にぶい黄橙、10YR3/1黒褐 | やや粗、長石・チャート含 | 良好 | 2/5 | 98 |
| (内):10YR7/3にぶい黄橙・5YR5/6明赤褐、(外):10YR7/3にぶい黄橙、10YR6/4にぶい黄橙 | 密、長石含 | 良好 | 1/3 | 11 |
| (内)(外):7.5YR6/4にぶい橙、(断):7.5YR8/3浅黄橙 | 密、長石含 | 良好 | 1/4 | 82 |
| (内):10YR6/2灰黄褐、(外):10Y5/1灰、(断):10YR6/2灰黄褐 | 密 | 良好 | 1/4 | 106 |
| (内)(外):7.5YR7/6橙、(断):10YR7/1灰白 | 密、長石含 | 良好 | 4/5 | 80 |
| (内)(外):5YR7/4にぶい黄、(断):5YR8/2灰白 | 長石・チャート含 | 良好 | 漏部完形 | 93 |
| (内)(外)(断):7.5YR7/4にぶい橙 | 密、長石含 | 良好 | 1/2 | 79 |
| (内):N5/0灰、(外):10RG4/暗青灰、(断):N5/0灰・5R6/1赤灰 | 密、長石含 | 良好 | 1/4 | 81 |
| (内)(外)(断):N7/0-N6/0 | 密 | 良好 | 脚部:2/5 | 17 |
| (内):5YR8/3淡橙、(外):2.5YR7/8、(断):5YR4/1褐灰 | 密 | 良好 | 1/5 | 85 |
| (内):5YR8/2灰白、(外)(断):5YR8/4淡橙 | 密 | 良好 | 1/10 | 86 |
| (内)(外)(断):2.5Y8/1灰白 | 密 | 良好 | 1/10 | 53 |
| (内):10YR7/3にぶい黄橙、(外):7.5YR6/6橙、(断):7.5YR6/4にぶい橙 | やや粗 | 良好 | 1/10 | 54 |
| (内)(外):2.5Y7/1灰白、(断):2.5Y6/1黄灰 | 密、長石・クリア被覆 | やや軟 | 1/10 | 60 |
| (内):2.5Y6/2灰黄、(外):10YR6/2灰黄褐、(断):10YR6/3にぶい黄褐 | 密、繊維含 | 良好 | 1/5 | 70 |
| (内)(外):10YR6/3にぶい黄橙、(断):10YR6/2灰黄褐 | 密 | 良好 | 1/10 | 76 |
| (内)(外):10YR5/2灰黄褐、(断):10YR6/1褐灰 | 密、長石・雲母・角閃石含 | 良好 | 1/10 | 72 |
| (内)(外):7.5YR7/6橙、(断):7.5YR8/6浅黄灰 | 密、クリア被覆 | 良好 | 2/5 | 75 |
| (内):N6/0灰、(外):N4/0灰、(断):2.5Y6/1黄灰 | 密 | 良好 | 1/5 | 55 |
| (内)(外)(断):2.5Y7/3淡黄・5Y5/1灰 | 密 | 良好 | 4/5 | 117 |
| (内)(外)(断):10YR7/2にぶい黄橙・10YR7/1灰白 | やや粗、長石含 | 良好 | 1/4 | 30 |
| (内)(外)(断):10YR7/3にぶい黄橙・10YR4/1褐灰 | やや粗、長石・雲母含 | 良好 | 1/3 | 4 |
| (内):10YR5/3にぶい黄橙、(外):5Y2/1黒・10YR7/3にぶい黄橙、(断):10YR7/2にぶい黄橙 | やや粗、長石・石英・雲母含 | 良好 | 1/3 | 51 |
| (内):2.5Y8/3淡黄、(外):10YR7/4にぶい黄橙、(断):10YR8/3浅黄橙 | 密 | 良好 | 1/3 | 120 |
| (内)(外):7.5Y8/4浅黄橙 | 密 | 良好 | 3/5 | 68 |
| (内):2.5Y2/1黒、(外)(断):2.5Y6/3にぶい黄 | 密 | 良好 | 1/8 | 118 |
| (内):2.5YR5/6明赤褐、(外):10YR7/3にぶい黄橙、(断):10YR7/1灰白 | 密、長石・石英・クリア・雲母含 | 良好 | 4/5 | 52 |
| (内)(外)(断):10YR6/2灰黄褐・7.5YR3/1黒褐 | 密 | 良好 | 2/5 | 64 |
| (内)(断):7.5YR4/2灰黄褐、(外):10YR6/2灰黄褐 | 密 | 良好 | 3/5 | 129 |
| (内)(外)(断):10YR7/3にぶい黄橙 | 密 | 良好 | 4/5 | 104 |
| (内)(外)(断):7.5YR7/1明褐色・7.5YR6/6橙 | 密 | 良好 | 1/6 | 27 |
| (内):10YR6/3にぶい黄橙、2.5Y6/4にぶい橙・5YR5/4にぶい赤褐、7.5YR7/4にぶい橙 | 密 | 良好 | 1/5 | 46 |
| (内)(外)(断):7.5YR8/3浅黄橙、(外)(断):7.5YR8/2灰白 | やや粗、長石・チャート含 | 良好 | 1/6 | 99 |
| (内):10YR7/2にぶい黄橙、(外):10YR7/3にぶい黄橙・5YR7/6橙、(断):10YR8/2灰白 | 密、長石含 | 良好 | 1/4 | 22 |
| (内)(外)(断):2.5Y7/3浅黄 | 密 | 良好 | 1/2 | 123 |
| (内)(外):7.5YR7/3にぶい橙、(断):7.5YR7/2明褐色 | 密 | 良好 | 1/2 | 102 |
| (内)(外)(断):10YR7/3にぶい黄橙 | 密 | 良好 | 1/3 | 124 |

| 番号 | 種類 | 器種 | 法量 | | | 成形・調整 | |
|-----|------|-------|--------|-------|--------|----------------------|--------------------|
| | | | 口径 | 器高 | 底径 | 外面 | 内面 |
| 85 | 土師器 | 小型丸底壺 | (5.0) | 残5.2 | | ナデ | ナデ |
| 86 | 十輪器 | 甌 | | 残3.0 | 2.8 | ハケメ | ナデ |
| 87 | 土師器 | 壺 | | 残4.7 | 4.0 | ヘラケズリ | ナデ |
| 88 | 弥生上器 | 甌 | | 残4.9 | 2.2 | タタキ | ハケメ |
| 90 | 土師器 | 二重口縁壺 | (18.1) | 残7.0 | | ナデ | ナデ |
| 91 | 土師器 | 二重口縁壺 | (17.8) | 残5.7 | | ナデ | ハケメ |
| 92 | 土師器 | 二重口縁壺 | 16.4 | 残11.8 | | ナデ | ナデ |
| 93 | 十輪器 | 二重口縁壺 | (23.6) | 残10.8 | | 肩部;ハケメ | 肩部;ヘラケズリ |
| 94 | 土師器 | 二重口縁壺 | (26.6) | 残9.9 | | ナデ | 肩部;ヘラケズリ |
| 95 | 土師器 | 二重口縁壺 | (29.1) | 残11.5 | | 肩部;ハケメ | 肩部;ヘラケズリ |
| 96 | 土師器 | 小型丸底壺 | (11.1) | 残4.5 | | ハケメ | ナデ |
| 97 | 土師器 | 甌 | (16.6) | 4.2 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 98 | 土師器 | 甌 | (17.4) | 残3.4 | | タタキ | ナデ |
| 99 | 十輪器 | 甌 | (14.2) | 残3.4 | | ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 100 | 十輪器 | 甌 | (18.0) | 残4.3 | | 肩部;ハケメ | 口縁部;ハケメ、肩部;ヘラケズリ |
| 101 | 土師器 | 甌 | (14.4) | 残4.7 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 102 | 土師器 | 甌 | 14.1 | 残14.8 | | 口縁部;ヨコナデ、体部;タタキのちハケメ | 口縁部;ヨコナデ、体部;ヘラケズリ |
| 103 | 土師器 | 甌 | (13.5) | 残3.7 | | 口縁部;ユビオサエ、肩部;ハケメ | 口縁部;ユビオサエ、肩部;ヘラケズリ |
| 104 | 土師器 | 甌 | (14.4) | 残5.0 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ハケメ | 口縁部;ハケメ、肩部;ヘラケズリ |
| 105 | 土師器 | 甌 | (14.8) | 残4.35 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;タタキ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 106 | 土師器 | 甌 | (17.3) | 5.1 | | ヨコナデ | ヨコナデ |
| 107 | 土師器 | 甌 | (13.6) | 残4.6 | | タタキ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 108 | 十輪器 | 甌 | (19.8) | 残4.8 | | 口縁部;ユビオサエ、肩部;ハケメ | 口縁部;ハケメ、肩部;ヘラケズリ |
| 109 | 十輪器 | 甌 | (12.1) | 残5.9 | | ナデ | ナデ |
| 110 | 土師器 | 甌 | (16.0) | 残5.5 | | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ハケメ | 口縁部;ヨコナデ、肩部;ヘラケズリ |
| 111 | 弥生上器 | 甌 | | 残3.4 | 4.0 | タタキ | ヘラケズリ |
| 112 | 弥生土器 | 甌 | | 残3.7 | 3.5 | タタキ | ハケメ |
| 113 | 弥生土器 | 甌 | | 残3.1 | 4.1 | タタキ | ハケメ |
| 114 | 弥生土器 | 甌 | | 残4.3 | 5.0 | タタキ | ハケメ |
| 115 | 弥生土器 | 甌 | | 残4.8 | 3.8 | タタキ | ナデ |
| 116 | 土師器 | 高杯 | (13.5) | 残10.5 | | 下部;ハケメ | ヘラミガキ |
| 117 | 土師器 | 高杯 | | 残5.95 | (19.3) | ハケメ | ハケメ |
| 118 | 十輪器 | 高杯 | (13.9) | 残2.5 | | ハケメ | ハケメ |
| 119 | 十輪器 | 器台 | (9.9) | 残7.2 | | ヘラミガキ | ハケメのちナデ |
| 120 | 土師器 | 高杯 | | 残4.4 | (10.5) | ヘラミガキ | ハケメ |
| 121 | 土師器 | 二重口縁壺 | (19.7) | 残8.4 | | ナデ | ハケメ |
| 122 | 弥生土器 | 鉢 | (19.6) | 8.6 | | 体部;タタキ | 体部;ナデ |

観察表(3)

| 色調 | 胎土 | 焼成 | 残存率 | 実測番号 |
|---|--------------------|----|------|------|
| (内)(外)(断):2.5Y7/3浅黄 | 密 | 良好 | 1/4 | 121 |
| (内):2.5Y6/3にぶい黄、(外)(断):10YR6/3にぶい黄褐 | やや粗、長石・石英・雲母・クサリ隕含 | 良好 | 底部のみ | 95 |
| (内):2.5Y8/2灰白、(外)(断):2.5Y7/4浅黄 | 密 | 良好 | 底部のみ | 122 |
| (内):7.5YR2/1黒、(外):7.5YR2/1黒、10YR6/3にぶい黄褐、(断):2.5YR2/1灰白 | やや粗 | 良好 | 3/5 | 24 |
| (内)(外)(断):2.5Y8/2灰白 | 密 | 良好 | 1/20 | 78 |
| (内)(外)(断):2.5Y6/3にぶい黄 | 密 | 良好 | 1/5 | 116 |
| (内)(外)(断):10YR7/3にぶい黄褐 | 密 | 良好 | 1/10 | 103 |
| (内):2.5Y5/2暗灰黄、(外):2.5Y5/2黒褐 | 密 | 良好 | 1/5 | 69 |
| (内):10YR6/4にぶい黄褐、(外):7.5YR7/4にぶい褐、(断):7.5Y4/1灰白 | 密、長石・石英・雲母含 | 良好 | 1/2 | 31 |
| (内)(外)(断):2.5Y7/3浅黄 | 粗、長石・チャート含 | 良好 | 1/4 | 40 |
| (内):7.5YR7/3にぶい褐、(外):7.5YR1.7/1黒、(断):7.5YR7/3にぶい褐 | 尚、長石・クサリ隕含 | 良好 | 1/3 | 50 |
| (内)(外):10YR6/3にぶい黄褐、(断):10YR7/1灰白 | 密、長石・石英・クサリ隕含 | 良好 | 1/10 | 73 |
| (内):7.5YR6/3にぶい黄褐、(断):7.5YR6/3にぶい褐、7.5YR7/2弱褐灰 | 密 | 良好 | 1/8 | 41 |
| (内)(外):2.5Y7/2灰黄、(断):2.5Y7/1灰白 | 密 | 良好 | 2/5 | 38 |
| (内)(外)(断):2.5Y6/3/5/4黄褐 | 密 | 良好 | 1/5 | 128 |
| (内)(外):2.5Y7/2灰黄、(断):2.5Y7/2灰黄 | 密 | 良好 | 1/10 | 88 |
| (内)(外)(断):10YR4/3にぶい黄褐、10YR4/2黄褐 | 粗、長石・雲母含 | 良好 | 3/4 | 39 |
| (内):10YR4/2灰黄褐、(外):10YR6/3にぶい黄褐、(断):7.5YR6/1褐色 | 密、角閃石・長石含 | 良好 | 1/5 | 62 |
| (内):5Y8/4、(外)(断):2.5Y6/4にぶい黄 | 密 | 良好 | 1/10 | 126 |
| (内)(断):10YR7/2にぶい黄褐、(外):10YR8/4浅黄褐 | 密 | 良好 | 1/10 | 77 |
| (内):2.5Y8/2灰白、(外):7.5YR7/3にぶい褐、(断):10YR6/1褐色 | 長石・チャート含 | 良好 | 1/6 | 92 |
| (内)(外):10YR5/2灰黄褐、(断):10YR7/2にぶい黄褐 | 密、長石・角閃石・石英含 | 良好 | 1/20 | 59 |
| (内)(外):にぶい黄褐、(断):7.5YR6/1褐色 | 密、長石・雲母含 | 良好 | 1/5 | 61 |
| (内)(外)(断):10YR4/3浅黄褐 | 密 | 良好 | 1/5 | 115 |
| (内):2.5Y7/3浅黄、(外):2.5Y7/2灰黄、(断):2.5Y7/1灰白 | 密 | 良好 | 1/10 | 127 |
| (内):2.5Y6/2灰黄、(外):2.5Y6/2灰黄、(外):2.5Y7/2灰黄、(断):5YR6/4にぶい褐 | 密 | 良好 | 底部のみ | 89 |
| (内):7.5YR6/3にぶい褐、(外):10YR6/3灰黄褐、10YR7/2にぶい黄褐 | 密 | 良好 | 底部のみ | 96 |
| (内)(外):2.5Y6/2暗灰黄、(断):2.5Y6/2灰黄 | 密 | 良好 | 底部のみ | 45 |
| (内):7.5YR3/1黒褐、(外)(断):10YR6/2灰黄褐 | 密 | 良好 | 底部のみ | 125 |
| (内):5Y7/1灰白、(外):10YR7/3にぶい黄褐、(断):10YR8/2 | 密 | 良好 | 底部のみ | 87 |
| (内)(外)(断):7.5YR8/4浅黄褐 | 密 | 良好 | 1/2 | 37 |
| (内)(外)(断):10YR6/4浅黄褐 | 密 | 良好 | 1/2 | 114 |
| (内)(外)(断):10YR7/3にぶい黄褐 | 密 | 良好 | 4/5 | 66 |
| (内)(外)(断):10YR7/3にぶい黄褐、(断):10YR8/1灰白 | 密 | 良好 | 1/3 | 65 |
| (内):7.5YR8/3浅黄褐、7.5YR2/2黒、(外):7.5YR8/4浅黄褐、7.5YR2/2黒、7.5YR8/2灰白 | 密 | 良好 | 2/5 | 28 |
| (内)(外)(断):10YR5/2灰黄褐 | 密 | 良好 | 1/3 | 67 |
| (内):10YR6/3にぶい黄褐、(外):10YR6/3にぶい黄褐、SYR5/3にぶい赤褐、(断):10YR6/3にぶい黄褐、10YR2/1黒 | 粗、砂粒含 | 良好 | 1/3 | 3 |

観察表(3)

報 告 書 抄 錄

| ふりがな | きのもといせきはつくつちょうさがいよう | | | | | | |
|------------------|------------------------------|--------------------|-----------------------------|-----------------------|-------------------------|---------------------------|-------|
| 書名 | 木の本遺跡発掘調査概要・III | | | | | | |
| 副書名 | 平野川改修工事に伴う発掘調査 | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | | | | | | | |
| 編著者名 | 藤沢眞依、横田明、地村邦夫、井西貴子 | | | | | | |
| 編集機関 | 大阪府教育委員会 文化財保護課 | | | | | | |
| 所在地 | 〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 | | | | | | |
| 発行年月日 | 1999.3. | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 遺跡番号 | 北緯 ° / ′ | 東経 ° / ′ | 調査期間 | 調査面積 (m ²) | 調査原因 |
| きのもといせき 木の本遺跡 | やおしきのもと 八尾市 木の本 1丁目 | 27212 | 35 36 05 | 135 35 34 | 1996年 2月10日～ 3月7日 | 200m ² | 平野川改修 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 木の本遺跡 | 集落 | 古墳時代 近世～近代 | 溝、ピット 土坑、落ち込み 旧平野川、井戸 | 古式土師器 須恵器 陶磁器、瓦 | | | |

図 版



調査区西壁断面（東から）



調査区東壁断面（西から）



第1面全景（西から）



第1面全景（東から）



井戸（南から）



第6面全景（西から）



SX02（西から）



SX03（西から）



SX04（西から）



SX06（西から）



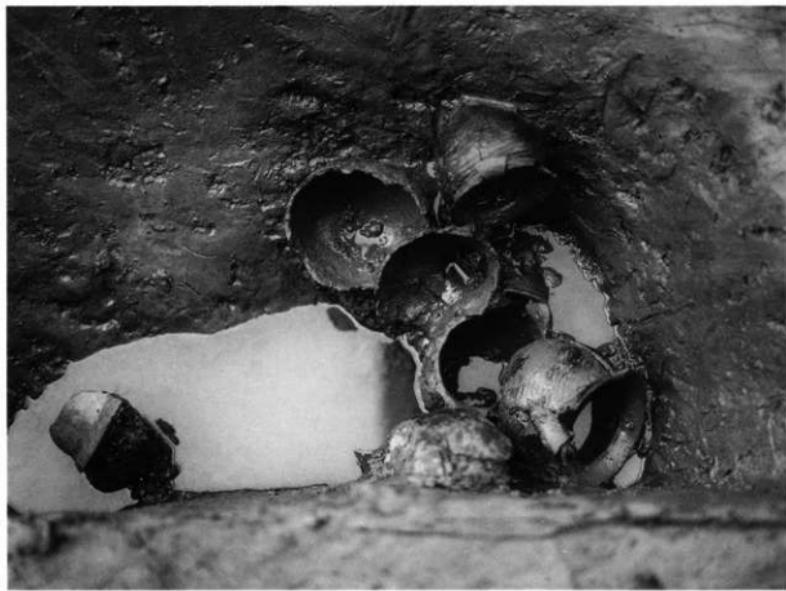
第7面全景（西から）



第7面全景（東から）



SK10 (北から)



SK10 遺物出土状況 (南上から)



SD11 · 12 遺物出土状況（北から）



同左（北から）



SD11 · 12 遺物出土状況（南から）



同左（東から）



Pit13 · 14、SK15 · 16（東から）



SK18 · 19（西から）



67



76



68



74



72



71



78



95



6



102



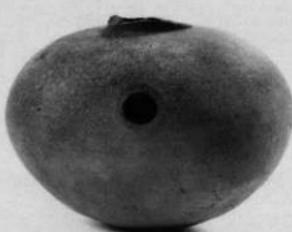
7



3



29



4



34



37

